

息障院(伝範頼館跡) 《 そくしょういん(でんのりよりやかたあと) 》

吉見町大字御所地内の息障院がある一帯が、源範頼の居館跡と伝えられている。源範頼は頼朝の弟で平治の乱後、岩殿山に逃げ比企氏の庇護によって成長した。頼朝が鎌倉で勢力を得た後も吉見に住んでいたと思われ、館を中心とするこの地を御所と呼ぶようになったと言われている。



範頼は遠江国 蒲御厨 (浜松市) で生まれたことから 蒲冠者 とも言われているが、頼朝・義経の生涯が良く知られていることに対して、不明なことや謎とされていることが多い。源平の合戦では義経と共に平氏追討軍を指揮していたが、頼朝が征夷大將軍になると謀反の疑いをかけられ、建久四年(1193年)八月に伊豆に流された。範頼のその後については不明であり「修善寺で自刃」「現横浜市の 太寧寺 で自刃」「伊予国(愛媛県)の河野氏を頼り、そこで没した」「北本市石戸宿で没した」などの諸説がある。

範頼没後はその子 範円 (一説には 範国)、為頼、義春、義世に至る五代がこの館跡に居住し、範円以降は吉見氏を称した。永仁四年(1296年)、範円の孫義春が謀反の罪で殺害され、次いで義春の子義世も謀反の罪で捕らえられ殺されるなど、北条氏の弾圧を受けた。

現在の息障院がこの地に移ったのは、室町時代の明德年間と伝えられるが、今なおこの寺の周囲には、範頼の館建立時に作られた堀の一部等が残っている。

源範頼館(吉見御所)

城名：源範頼館

別名：吉見御所

城主：源範頼

住所：埼玉県比企郡吉見町大字御所146番地1・息障院

遺構：水堀・空堀



吉見町役場の北1km、松山城の東北東2kmに位置する源範頼館。その館は伝承が多く、謎も多い館といえましょう。

これだけ有名な人物、館跡でありながら謎だらけというのも珍しいです。仮にも源氏一門ですから・・・蒲冠者と称した源範頼は、源頼朝の異母弟です。吾妻鏡では治承5年(1181年)に「蒲冠者範頼馳せ来たる」から始まり、平家追討に活躍するものの、頼朝から警戒され、建久4年(1193年)伊豆に幽閉されてしまいます。ここまではある程度知られている事実。しかし吾妻鏡では源範頼の最後が記されていないため、日本各地に伝説を残し、この息障院も伝説地の1つとなっています。

ところが、治承5年(1181年)より前、父源義朝が平治の乱(1159年)に敗れ平家方に追われた範頼は、岩殿山安楽寺(吉見観音)に稚児僧として暮らした伝説もあります。

息障院の山門前に案内板があります。

「当山は真言宗智山派に属し、岩殿山息障院光明寺と称する。

開創は古く天平年中(730年ころ)行基菩薩によるといわれている。また、大同年中(806年ころ)坂上田村麻呂將軍の開祖によるとも伝えられている。

古くは吉見護摩堂と称し、天慶の乱の折、平将門調伏の護摩を修し、その功により息障院の号を下賜されている。

現在の境内地は、源範頼の館跡といわれ、県の指定旧跡となっている。

本尊は不動明王であり、平安時代末～鎌倉初期のもので定朝様式を伝える傑作といわれ、県指定の有形文化財である。

当山の全盛期は、戦国時代から江戸時代で、その当時は、末寺１２０余か寺を数え、隆盛を極めたものである。

「平成１０年３月 吉見町・埼玉県」とあります。

もともと息障院は、岩殿山安楽寺（吉見観音）の参道から右に見える愛宕山にあり、明徳年間（１３９０年～１３９４年）に現在地に移転したという伝えがあることも付け加えておきましょう。

吉見氏、上田氏が源範頼の末裔を称しているため、伝説地の話題を盛り上げる結果になったような気が

します。